

TRPU NEWS

富山県立大学ニュース

NO. 129

| Spring | 2021



「看工連携」で
富山県立大学が目指すもの

p. 213 Close UP 県大

- p.4 退職にあたり
- p.5-6 キャンパストピックス
- p.6 OB・OG紹介
- p.7 研究紹介
- p.8 受賞情報
- p.9 インフォメーション
- p.10 サークル紹介・スケジュール

本学ならではの
看護学と工学の連携
についての特集じゃ!



「ドンドンマスマス 富山県立大学」
プロジェクトリーダー・ドンマス教授

MAKE
TOYAMA
STYLE

BEYOND CORONA, WITH US

「看工連携」で富山県立大学が目指すもの



看護技術を高めるために

—— 本学の特徴の一つに看護学と工学の連携、「看工連携」があります。まずは、このような考え方が出てきた背景から教えてください。

青柳講師 看護学部開設に向けて諸先生方と議論する中で、私たちの看護実践能力を高め、それを教育の場で活かすために工学部と連携ができないかという意見が出ました。本学には工学部が先行してありましたので協力をお願いし、2年次からの科目として「看護ケアと工学」・「生活支援と情報」・「先端医療論」を設けました。1つのテーマの下、工学・看護学の複数の教員がオムニバス形式で講義を進めています。

唐山教授 実は本学に看護学部が設置される3年ほど前に、ある大学の看護学科の先生から相談を受けました。その1つは「看護ケアの技術を客観的に評価する方法はありませんか」というものです。看護師さんの患者さんとの接し方を客観的に分析し、良いところは伸ばし、足りないところは補いたい。そのための客観的な情報が欲しいというお話でした。この場合はセンサを用いて看護師さんの動きを分析すれば検証が可能だと思い、その旨お答えしました。本学の看工連携では、そういう視点も含めて取り組んでいます。

例えば看護師の視線を計測すると……

—— 看工連携で、工学部にメリットはありますか。また実績は出ていますか。

唐山教授 もちろんメリットはあります。例えば、患者さんの生体情報をより正確に取得するためのセンサを開発しようとする、日頃から看護師さんや患者さんとの信頼関係を築いておかなければいけません、看工連携はその窓口的な役割をします。4年前にある病院の協力を得て、学部生や院生が高齢者の生体計測を行わせていただきました。中にはそこでヒントを得て、卒論・修論をまとめた学生もいます。看護師さんからは、「高齢者と接するうちに学生の真剣さがアップして、しっかりしてきた」とお褒めの言葉をいただき、学生にとってもよい経験をさせていただいたと思います。

青柳講師 看護学部では、冒頭に紹介した3つの科目が本年度から始まったばかりですが、成果はこれから出ると期待しています。また、1年生から参加する少人数教育のトピックゼミの学生の中には、私の研究テーマに興味を持ってくれる学生が何人もいました。私の研究テーマの1つに、タブレットを用いた家族介護者のための教材開発があります。情報伝達を電子化することで、個々の状況に合わせて学ぶことができます。動画やイラストを用いて説

対談出席者



工学部情報システム工学科
教授 唐山 英明



看護学部看護学科
講師 青柳 寿弥

明することもできます。臨地実習が本格的に始まる2年次から看工連携の科目を履修することによって、看護ケアについての気付きをたくさん得ることができます。

—— 昨年12月10日、看工連携で高校生を対象に「ひらめき★ときめきサイエンス ユマニチュードってなあに？」というセミナーが開催されました。反応はいかがでしたか。

青柳講師 ユマニチュードの技法の中に、患者さんの瞳をしっかり見るという技術があります。今回はそこにスポットを当てました。見下ろすのではなく、患者さんと目線の高さを合わせ、正面から瞳と瞳を合わせて見つめ合う。「私はあなたに関心があります」という意思表示になります。これを繰り返して信頼関係を結ぶと、コミュニケーションがとれるようになります。

唐山教授 その基礎的なところを解説していただいた後、視線計測機で看護師役サイドの視線がどこを向いているかを測りました。主観的には「患者さんを見ている」と思っている、患者さんの視界から外れていることがありますし、見下ろしていることもある。またほんの一瞬、視線を合わせただけのこともある。こうしてデータを取ると、「顔を患者の正面に」・「少し姿勢を低くしたらよい」・「何秒ほどじっと見つめたらよい」など、データに基づいた正確なアドバイスができ、看護技術の改善に生かすことができるのです。

青柳講師 セミナー終了後、参加者からは、「目の表情で何かを訴えることができることがわかった」「見る技術で相手の気持ちや伝えたいことを感じる事ができた」、「1分間目を合わせたのは初めて。見つめ合うことは大事だ」、などの感想をいただきました。



「ひらめき★ときめきサイエンス ユマニチュードってなあに？」の様子

ものづくりが盛んな富山の技術も生かして

—— 看工連携について今後の抱負をお聞かせください。

唐山教授 こうした連携はこれからもっと盛んにしたいと思います。本学に「看工連携研究会」を立ち上げましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の終息を待って研究会を再開したいと思います。工学部の他の学科でも看工連携の可能性があるので、他の学科の先生方のご参加と、県内の看護従事者の方々のご参加もお待ちする次第です。

青柳講師 工学部の先生方にはこれからもご協力をお願いし、講義の充実を図っていきます。またこれは私の個人的な思いですが、富山県はものづくりが盛んで、素晴らしい技術をお持ちの企業がたくさんあります。そういった企業の皆様のご協力も得て、富山ならではの看工連携を形づくり、新しい看護ケアの手法を全国に、世界に発信したいと思います。

本学の看工連携について

専門基礎科目の中に「安全と快適を支援する看護学・工学の連携」という区分を設け、看護学と工学の教員が関わる以下の3つの必修科目を設けた。「看護ケアと工学」では、人々の生活を支援するための看護・介護ロボットの作用原理、医療事故防止のためのセンサ技術、看護ケアの行動分析の実際などを学ぶ。「生活支援と情報」では、人々の健康を維持・増進するためのICT（情報通信技術）活用などに重点を置く。「先端医療論」では、富山県立中央病院の医師・看護師が講師を務め、最先端の手術ロボット「ダヴィンチ」も活用し、先端医療における看護の役割などを学ぶ。飛躍的に発展しているAI（人工知能）やロボット、ICTなどが生活の場にどんどん入ってきている現在、看護においても生活の質を高める観点からこれらを活用することが求められており、新しい看護学教育として看工連携を展開していく。

ユマニチュードとは

フランスの体育教師が考案したケア技法。「最期の日まで人間らしい存在であり続けることを支える」という考えをベースに、見る・話す・触れる・立つという基本技術を複数同時に用いて、看護ケアを実践する。これにより患者の視覚・聴覚・触覚を刺激して脳神経を活性化させ、コミュニケーションを重視したケアによって信頼関係を築くことを図る。攻撃的だった認知症の高齢者が穏やかになるなどの症例が多く、「奇跡のケア」と称される。県大看護学部では、考案者の一人であるイヴ・ジネストさんを毎年夏に招いて集中講義を行い、看護ケアを深めるカリキュラムを設けている。

退職にあたり



工学部教養教育センター
教授

石森 勇次

平成2年に本学が開学されるのと同時に工学部電子情報工学科講師として着任して以来31年の歳月が流れ、このたび定年退職を迎えることとなりました。開学当初はまだ専門学科の教員室が完成しておらず、しばらく実習棟の広い部屋で他の多くの教員の方々と一緒に仕事をしており、新しい大学を皆でつくっていく活気を感じながらの生活でした。最初の授業で緊張し、また物品の発注の仕方がわからないなど若手の教員として戸惑う中、同室の教員の方々にはいろいろ教えていただきました。その

後、平成7年に一般教育の数学担当教員になり、学部学生の教養教育、特に数学教育に今まで携わってきました。この間、本学が学科の改組や拡充、法人化や看護学部の開設など絶えず発展し続けている中で、どの程度本学に貢献できたのかわかりませんが、何とか定年まで辿り着けたのも、教員や事務の方々のおかげによるものと思います。皆様には心より感謝申し上げますとともに、今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



工学部知能ロボット工学科
教授

平原 達也

2006年に発足した知能デザイン工学科に着任してから15年間、学部生にデジタル信号処理などを講じるとともに、大学院生を鼓舞して音響工学と聴覚科学の研究を行ってきました。そして、学生諸君と一緒に、自作の実験装置を用いて新しい音響・聴覚現象をいくつか見つけるとともに、高感度の体導音センサ、遠隔地の音を立体再生する移動型テレヘッド、頭部伝達関数の高速計測システムなどを創ることができました。学生諸君は、「底力」を出せば世界と互角に闘えるという自信をもったことと

思います。これらは、本学の少人数教育体制の賜です。また、小規模校ゆえに風通しがよく、立場を越えて学内外の方々と率直な話しができる場があったことも幸いでした。このような持ち味を活かし、世の中が移ろぎ風は強く波は高くなろうとも、本学は前に進んでいくことでしょう。末筆ながら、お世話になった教職員のみなさまと地元企業のみなさまにお礼を申し上げます。



工学部環境・社会基盤工学科
教授

高橋 剛一郎

1983年4月に県立大学の前身、富山県立技術短期大学農林土木科に着任以来、38年間勤務してきました。この間、同科は同短大の衛生工学科と合流して2009年4月には4年制の工学部環境工学科となり現在に至っています。土木工学と環境工学が融合した、ユニークな学科です。そして、工学部の特色の一つである環境リテラシーを備えた工学技術者教育の中核を担ってきた学科です。このような学科の創設にその前身から関わることができ、たいへん有意義な経験をできたことと感慨深いものがあります。

SDGsの達成が重要課題となっている現在、本学の姿勢は重要であり、今後も力強く継承されていくことを望みます。

環境工学棟には37年間、新たにな中央棟には1年だけ入っていました。旧棟には簡単にまとめきれない多くの思い出があります。新棟には本学の今後のますますの発展の可能性を感じています。最後に、教職員の皆様方からいただいた長年に渡るご理解とご協力に感謝するとともに、皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。



工学部生物工学科
教授

伊藤 伸哉

本学名誉教授の山田秀明先生のお誘いを受けて1997年に現在の生物・医薬品工学研究センター教授として赴任して24年になります。研究重視のセンターなら遺伝子工学など新しい研究分野を開拓できるのではという思いでした。これまで約40年間、発展著しいバイオテクノロジー分野に身を置けたのは実に幸運であったと思います。本学での思い出は多々ありますが、生物工学科新設のため、中沖元知事が主催する有識者会議に説明に伺ったことなどが昨日のように思い出されます。今年度は、残

念ながらパンデミックの年となってしまいました。しかし歴史を振り返ると黒死病の後にヨーロッパで宗教改革やルネッサンスが勃興したように、パンデミック後は常にグローバル化や社会改革が加速します。大学教育もデジタル化を含め大きく変化していくように感じます。退職にあたり、これから教育研究の中心となる若い教職員の皆さんにエールをお送りするとともに、お世話になった多くの方々に感謝申し上げます。



工学部医薬品工学科
教授

神 利之

2004年4月に生物工学科機能性食品工学講座の教授として着任し、2017年4月に医薬品工学科バイオ医薬品工学講座に異動しました。県立大学在籍期間は17年に及びますが、あっという間という感があります。それまでは企業に16年9か月、他大学に7年3か月在籍しましたが、ずっと関西に居りましたので、着任当時は雪化粧した立山の雄大な姿や春の桜、梨、チューリップに感動し、キトキトの魚の美味しさに感激するという毎日でした。幸い、有能な同僚、スタッフ、数多くの優秀な学生、豊富な研究資金に恵まれ、まずまずの研究成果を挙げることができたかなと思います。また、ベンチャー企業

の立ち上げや医薬品工学科の開設など、エキサイティングなプロジェクトに携わることができました。現在、そのベンチャー企業は中央棟のオープンラボに間借りしており、2021年4月からはそこで多くの時間を費やすことになると思います。また、私の研究室に配属された4年生3名全員が本学の大学院に進学することになりましたので、彼女たちが就職するまでは、研究のサポートをさせていただきたいと思っています。教職員の方々、事務局の方々には長い間たいへんお世話になり、ありがとうございました。本学のますますの発展を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。

Campus Topics

田中耕一特任教授による特別授業

10月19日(月)に射水キャンパスの中央棟・大講義室にて本学の特任教授・田中耕一先生(栂島津製作所エグゼクティブ・リサーチ フェロー)による特別授業が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、学生100名が受講しました。

授業では、質量分析に限らず分析・計測手法の基礎を知る事で、様々な応用や発想ができる事を講義していただき、学生は熱心に話に聞き入っていました。

田中先生から「専門分野の枠を超えた幅広い視野で研究と向き合えば、新しい発見に出合える。希望を持って頑張ってください」とエールをいただきました。



第31回 オンライン県大祭 開催!!

10月24日(土)、25日(日)に学生が中心となって行う最も大きなイベントである「第31回県大祭」が開催されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、対象を学内に限定し、(一部対面企画を除き)オンラインでの開催となりましたが、「Spice」のテーマのもと、学生会主導でオンラインならではの



の様々な企画を実施し、盛り上がりを見せました。

2日間の総再生回数は約4000回と多くの学生・教職員にご視聴いただきました。



第5回 英語スピーチコンテスト

10月23日(金)に、第5回 富山県立大学学長杯争奪 英語スピーチコンテストを開催しました。今年度は初めてのオンライン開催となりましたが、参加者は堂々としたスピーチで日頃の成果を発揮しました。

【学部1年次生の部】Recitation部門

- 優勝 渡辺 実桃(電気電子工学科)
- 準優勝 西本 真彩(看護学科)
- 第3位 西川 日葵(生物工学科)
- 審査委員会特別賞 中西 伶奈(医薬品工学科)



大学院生向け業界研究会

大学院生に対する県内企業の認知を高めることを目的に、2020年12月17日(木)、オンラインにて、「大学院生向け業界研究会」を開催しました。本学卒業生が在籍している県内企業20社を招聘し、一社あたり約40分の中で、企業からの説明と質疑応答を行いました。大学院1年生や大学院進学を予定または希望する学

部3、4年生のうち希望者が参加し、2021年3月から本格化する就職活動を前に、企業や業界について学びました。質疑応答の時間では、学生が卒業生に対して、企業の選び方や実際の仕事内容、就職活動の体験談や入社してからの研修のこと等について、熱心に聞いていました。

令和2年度 富山県立大学環境講演会

11月19日(木) Zoomウェビナーを利用しオンラインで、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。この講演会は、環境問題について学ぶことを目的としています。

今年度は、「宇宙からの目で海洋環境を考える」と題して、名古屋大学 宇宙地球環境研究所の石坂丞二教授にご講演いただきました。

人工衛星リモートセンシング技術を用いて観測した、宇宙からみた海洋環境状況についての紹介があり、総勢394名の参加者が今後の海洋環境に対する課題等について理解を深めました。



富山県立大学秋季公開講座

10月10日、17日、31日、11月7日の4日間、射水キャンパス中講義室において秋季公開講座を開催しました。今回は、環境・社会基盤工学科の教員が講師となり、『富山にある危機、富山からの挑戦—まち・災害・環境の視点から—』をテーマに講義を行いました。本学での研究内容を皆様に紹介する貴重な機会となりました。オンラインでの参加者を含め、延べ496名が参加し、「身近な例や実験等があり、分かりやすく楽しく聴講できた。」など嬉しい感想をいただきました。



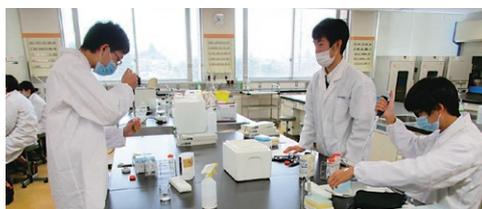
Campus Topics



令和2年度 高校生向け科学技術体験講座

本学では毎年、県内の高校と連携し、高校生向け科学技術体験講座を実施していますが、今年度は、12月18(金)に富山東高校、12月21(月)に大門高校の皆さんが、本学教員による講座(計5講座)を受講しました。

日頃触れることのない、大学での専門的な講義や実験を大学の施設を利用して体験することで、科学・技術への関心を高めるとともに、本学の研究や教員をはじめ、ドンドンマスマス成長する魅力を感じてもらえたのではないのでしょうか。



2020年度 地域協働授業成果発表会

本学では、学生が地域関係者と直接対話や交流を行いながら地域が抱える課題について考え、課題解決をサポートする「地域協働授業」を実施しています。その成果や学生団体の自主的な地域協働について広く知っていただくため、1月21日、22日の2日間にわたり、「地域協働授業成果発表会」を開催しました。昨年4月に供用を開始したばかりの中央棟を会場とし、様々な団体が各々の取組みをポスターセッション形式で発表しました。学生からは「コロナ禍で活動を行うことは難しかったが、この状況でどうしたら課題を解決できるか考えることは大きな学びになった。」「この活動で得た学びを、今後の研究にも活かしたい。」などの感想がありました。



学生時代にしか体験できないことに積極的に挑戦を!

富山県庁 小林 勇佑

2018年3月 富山県立大学大学院工学研究科
博士前期課程 環境工学専攻 修了

私は工学部環境工学科(現:環境・社会基盤工学科)及び大学院環境工学専攻の6年間の学生生活を経て、富山県庁に入庁しました。現在は県の出先機関である氷見土木事務所で、公共工事の設計、発注、監督などの仕事をしています。現在の業務内容は、土砂災害対策事業を担当しており、具体的には地すべりの危険度の高い箇所において、抑止杭工工事などの対策工事を行うことで地域の安全を守っています。工事の設計や監督業務を行うためには、測量学や土質力学等の知識が基礎となるため、在学中に学んだ土木工学の専門知識を使う場面もあります。

学生時代は、コンクリート工学研究室・伊藤始教授の研究室に所属していました。既設のコンクリート構造物を長く使い続けるためには、その内部のコンクリートや鉄筋の状態を精度よく把握することが重要となります。研究では実際にコンクリート供試体を数多く製作し、さまざまな要素実験を行ったり、実験結果と構造解析プログラムを組み合わせた内部ひずみ測定手法に関する検討を行ったりしていました。

また、全国規模の学会発表等への参加を通して、自身の研究を初めて聞く人でも理解していただけるようにプレゼン技術の向上に取り組みました。また、研究のほかに、研究室メンバーと協力しながら旧富山大橋の床版コンクリート試験に携わったり、大学のダ・ヴィンチ祭にてコンクリートの手型作り教室を出展したりしていました。

最後になりますが、私は長いようで短い学生生活の間にサークル活動や研究・学会発表などの学生時代にしか体験できないことに積極的に挑戦することを強くお勧めします。学生時代の研究では、1つのテーマについて時間をかけて掘り下げることができず、その過程で苦勞して学びを得たことや専門性の極め方あるいは失敗体験は、社会に出てから役に立つときが来ると思います。学生のみなさんも、失敗を恐れずアクションを起こし、充実した学生生活を送ってください。



研究紹介-①

教養教育センター／准教授 竹澤 みどり



交際相手からの暴力についての研究

DV(ドメスティック・バイオレンス)という言葉は、一昔前に比べて耳にする機会は多くなったのではないかと思います。DVというと配偶者間に起こる暴力をイメージしやすいですが、婚姻関係のない交際関係においても暴力は起こっています。実際、内閣府の行った調査によると男女ともに1~2割の人は交際相手から暴力を振るわれた経験があり、その割合が年々増えていることが報告されています。つまり、交際中の相手から暴力を振るわれるという経験が男女ともに特殊なめったに起こらないこととは言えないのが現状となっています。“暴力”というと殴る、蹴るといった身体的暴力がイメージしやすいかもしれませんが、心理的暴力や性的暴力も起こっています(Fig.1~3)。

このような、婚姻関係のない交際相手からの暴力に焦点を当て、暴力が維持・深刻化(または収束)する過程を明らかにすることを目的として他大学の教員と共同研究を行っています。

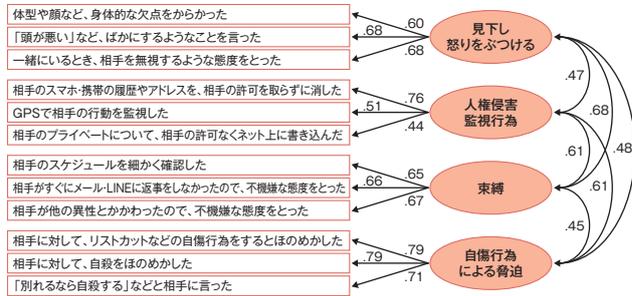


Fig.1 心理的加害経験尺度短縮版の確認的因子分析結果(松井・寺島・宇井・竹澤・宮前, 2019)

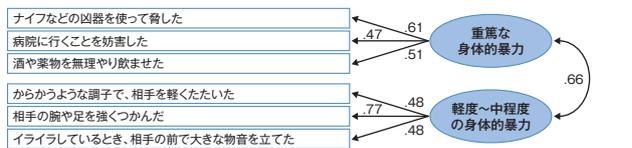


Fig.2 身体的加害経験尺度短縮版の確認的因子分析結果(松井・寺島・宇井・竹澤・宮前, 2019)



Fig.3 性的加害経験尺度短縮版の確認的因子分析結果(松井・寺島・宇井・竹澤・宮前, 2019)

研究紹介-②

情報システム工学科／講師 木下 史也



視空間認知障害を評価する ビジョントレーニングシステムの開発

厚生労働省による調査報告では、2025年、日本の認知症高齢者数は730万人に増加すると予想されており、これは65歳以上の5人に1人が認知症を発症する見込みとなります。認知症は罹患した本人はもちろん、家族や地域社会においても様々な負担の増加を引き起こすことが考えられ、高齢者の認知機能低下を遅延するための取り組みが期待されています。認知機能低下の遅延に関しては、健常と認知症の境目に位置する軽度認知障害(MCI)の早期発見が重要視されています。一方、MCIは認知機能の一部に問題を抱えつつも日常生活には支障をきたさない状態であるため、早期発見が困難です。ここで、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の初期症状として視空間認知障害があります。視空間認知障害とは、対象物の「空間における位置」や複数の対象物の「空間における位置関係」の認識に不具合が生じる認知障害です。本研究では、立

体映像と視線計測装置を使用して高齢者の奥行き知覚を定量的に評価することで、MCIの早期発見を目指す取り組みを行っています。また、このコンテンツを応用して、高齢者の奥行き知覚を訓練するビジョントレーニングシステムの開発を行っています。



教員の受賞

受賞日順、学科名、職位は受賞時のもの

伊東 聡 准教授/工学部知能ロボット工学科

IOP Outstanding Reviewer Award 2019

英国・IOP Publishingが発行する雑誌における
研究論文の査読活動への貢献に対して

2020.4.22受賞

北島 友香 助教/看護学部看護学科

看護理工会 2020年度奨励賞

分娩前の乳腺組織の厚みと産後の乳汁分泌の関係
(共著論文の受賞)

2020.10.25受賞

伊藤 始 教授/工学部環境・社会基盤工学科

公益財団法人発明協会 発明奨励賞

スパイラルアンカー工法(既設鉄筋コンクリート地下構造物を対象とした
あと施工によるせん断補強工法)

2020.11.12受賞

増田 寛之 准教授/工学部知能ロボット工学科

JACIII Outstanding Reviewer Award 2020

JACIII誌の査読において大きく寄与した査読者に贈られる

2020.11.20受賞

片田 裕子 教授/看護学部看護学科

第1回 日本フットケア足病変医学会優秀演題賞

糖尿病重症化予防(フットケア)に特化した
セルフケア影響因子確認シート開発のための基礎的研究

2020.12.5受賞

木下 史也 講師/工学部情報システム工学科

形の科学会 奨励賞

重心動揺の非線形数理モデルについて

2020.12.5受賞

学生等の受賞

学科名、学年、指導教員の職位は受賞時のもの

吉田 萌佳 工学部環境・社会基盤工学科4年

日本コンクリート工学会中部支部
令和2年度学生研究発表会(オンライン) 優秀スライド賞

指導教員:教授 伊藤 始

2020.9受賞

山岸 祥希 博士前期課程環境工学専攻2年

日本コンクリート工学会中部支部
令和2年度学生研究発表会(オンライン) 優秀スライド賞

指導教員:教授 伊藤 始

2020.9受賞

今井 裕規 博士前期課程環境工学専攻(令和元年度修了生)

土木学会 地球環境論文奨励賞

指導教員:教授 川上 智規

2020.9受賞

桂川 美咲 博士前期課程生物工学専攻1年

第62回天然有機化合物討論会奨励賞(ポスター発表の部)

指導教員:教授 占部 大介

2020.10受賞

山下 凌大 博士前期課程知能デザイン工学専攻2年

公益社団法人 砥粒加工学会 優秀講演賞

指導教員:教授 岩井 学

2020.10受賞

内藤 匠海 博士前期課程機械システム工学専攻1年

富山県発明とくふう展 北日本新聞社長賞

指導教員:准教授 寺島 修

2020.11受賞

西川 礼恩 博士前期課程機械システム工学専攻1年

富山県発明とくふう展 日本弁理士会会長奨励賞

指導教員:准教授 寺島 修

2020.11受賞

山下 大輔 工学部知能ロボット工学科4年

2020年度精密工学会北陸信越支部学術講演会 ベストプレゼンテーション賞

指導教員:准教授 伊東 聡

2020.11受賞

中山 舞 博士前期課程生物工学専攻2年

2020年度日本フードファクター学会学術集会
YIA (Young Investigator Award) 若手優秀発表賞

指導教員:教授 生城 真一

2020.11受賞

大館 直哉 工学部知能ロボット工学科4年

日本知能情報ファジィ学会北信越支部シンポジウム 優秀発表賞

指導教員:教授 高木 昇

2020.11受賞

長野 孝亮・伊藤 真由・藤森 健 博士前期課程情報システム工学専攻1年

佐藤 祐一・羽場 太一 工学部電子・情報工学科4年

アイデアコンテスト"テクノ愛2020" 奨励賞

指導教員:教授 唐山 英明

2020.11受賞

田中 晴康 博士前期課程情報システム工学専攻1年

第36回近赤外フォーラム Best Poster Award

指導教員:教授 大寺 康夫

2020.11受賞

横井 亮祐 工学部知能ロボット工学科3年

森 寛喜 工学部機械システム工学科2年

〔発明倶楽部の活動で受賞〕

(公社)日本設計工学会 設計コンテスト2020
優秀設計賞及び最優秀発表賞

指導教員:教授 神谷 和秀、准教授 伊東 聡

2020.11受賞

大原 冬海・亀田 創太・豊田 凱 工学部電子・情報工学科3年

第16回 みんな起業家、集まらんまいけ!
ビジネスアイデアコンテスト
奨励賞、特別賞(富山ニュービジネス協議会賞)

指導教員:講師 木下 史也

2020.12受賞

村瀬 樹 博士前期課程機械システム工学専攻1年

一般社団法人 プラスチック成形加工学会
第28回秋季大会 ポスター賞

指導教員:准教授 棚橋 満

2020.12受賞

石田 聡志 博士前期課程機械システム工学専攻2年

学生表彰(オープンCAE・FrontISTR合同シンポジウム2020,
主催 オープンCAE学会)

〔同シンポジウムにおいて、優秀な発表と認められた学生に贈られる。〕

指導教員:教授 中川 慎二

2020.12受賞

森崎 稜磨 博士前期課程機械システム工学専攻1年

ものづくりinとやま 学生論文 優秀賞

指導教員:准教授 寺島 修

2021.2受賞

大田 龍治 工学部知能ロボット工学科2年

ものづくりinとやま 学生論文 佳作

指導教員:教授 神谷 和秀、准教授 伊東 聡

2021.2受賞

津幡 宥吾 工学部知能ロボット工学科2年

ものづくりinとやま 学生論文 佳作

指導教員:教授 神谷 和秀、准教授 伊東 聡

2021.2受賞

土井 柊弥 工学部知能ロボット工学科2年

ものづくりinとやま 学生論文 佳作

指導教員:教授 神谷 和秀、准教授 伊東 聡

2021.2受賞

松永 壮一郎 工学部知能ロボット工学科2年

ものづくりinとやま 学生論文 佳作

指導教員:教授 神谷 和秀、准教授 伊東 聡

2021.2受賞

Information

1

富山県立大学県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）

～令和3年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目などバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

- **募集期間** 令和3年3月22日(月)～4月2日(金)
- **授業期間** 令和3年4月8日(木)～8月13日(金)
- **公開科目** 一般教養科目……社会学I、心理学I、数学Iなど
工学部専門科目……機械力学、ロボット工学基礎、
バイオ医薬工学など
- **受講料** 1科目5,000円(複数科目の受講可能)
※研究協力会員は半額助成となります。

●お申込み・お問い合わせ先

新型コロナウイルス感染症の発生状況等により、内容が変更となる可能性があります。詳しくは右記大学HPをご確認ください。

富山県立大学地域連携センター(受講生窓口)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL : 0766-56-0604 FAX : 0766-56-0391 E-mail : openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL : https://www.pu-toyama.ac.jp/regional_alliances/lifelong_learning/open_university/

2

学位記授与式

令和2年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホールラポールにて執り行います。

なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況等により内容が変更となる可能性があります。情報は大学HPでお知らせしますので、ご確認ください。

【授与式】

- **日時** 令和3年3月20日(土・祝) 午前10時～
- **会場** アイザック小杉文化ホール ラポール
(射水市戸破1500番地)



3

「公立大学法人富山県立大学安否確認システム（ANPIC）」

●安否確認システム（ANPIC）について

本学では「公立大学法人富山県立大学安否確認システム（ANPIC）」を導入しています。富山県で「震度6弱」以上の地震が発生したときは、あらかじめ学生の皆さんに登録していただいているメールアドレス等にANPICから安否確認メールが自動送信され、受信した学生は安否状況を報告することになっています。

上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が手動でメール配信を行います。

●安否検索

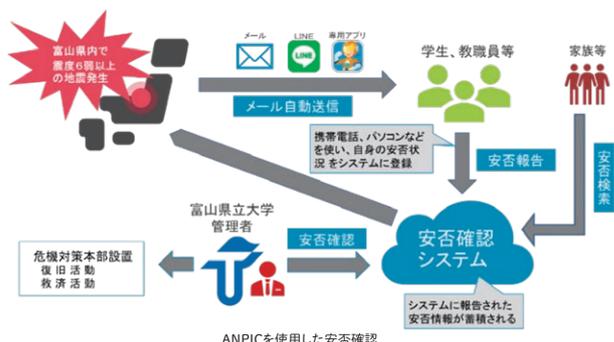
ANPICは、ご家族が、本学の学生の安否情報を検索して、確認することができます。

電話でのお問い合わせには、時間がかかる場合がありますので、ご家族の方は、できるだけ【ANPICログインサイト】のURL※にアクセスして、安否検索をご利用くださいますようお願いいたします。なお、安否情報は、平常時は非公開に設定しています。大規模災害時にご家族が学生及び教職員の安否を確認できるよう一時的に公開します。

※本学のホームページの安否確認システムのサイトに掲載しています。

●事前の登録

安否確認メールを受信するために、学生の皆さんは、事前にANPICに携帯メールアドレスの登録やアプリの登録（LINE設定）を行う必要があります。学生が、ANPICに登録していない場合には、是非ご家族からも、登録を済ませるようお声がけをしていただけるよう、よろしくお願いいたします。



ANPICを使用した安否確認



eSports部



みなさんこんにちは! eSports部です! 私たちeSports部はEnjoyEsportsEventを目標に掲げて活動しています。部全体の主な活動内容は月に一度程度Enjoy会という

一般の人も参加可能なeSportsをエンジョイする独自のeSportsイベントの開催(写真はEnjoy会のものです!)、eSportsイベントへのブース出展等での参加、それらの話し合いをするための隔週ミーティング等です。今年の活動としてはEnjoy会のオンラインでの実施や大学祭のスマブラ大会、富山県で開かれたToyamaGamersDay2020のspratoun2のブース出展等になります。どれもみんなでワイワイと楽しいイベントになりました。

さらに、部内でチームを組んでeSports大会への参加等もしています。Shadowverseの大会では予選ブロックを勝ち抜き、決勝トーナメントまで進出することができました。

eSports部は去年出来たばかりですがこのようにみんなで協力して活動をしています。活動に興味を持った方はTwitter等のSNSでお気軽に連絡をどうぞ! Enjoy会も気軽に参加してください!

(Twitterアカウント: @tpuesportsE3)
(情報システム工学専攻1年 相宮 健人)

Schedule

スケジュール【令和3年度】

- April 4月**
 - 6日(火) 入学式
 - 8日(木) 前期授業開始
- 射水キャンパス**
 - 3月29日(月)~4月7日(火) オリエンテーション
 - 5日(月)~7日(火) 学生定期健康診断
- 富山キャンパス**
 - 5日(月)~7日(火) オリエンテーション
 - 14日(火)~16日(木) 学生定期健康診断
- May 5月**
 - 21日(金) 研究協定会総会
- June 6月**
 - 1日(火) 学生球技大会
 - 下旬 オープンキャンパス(工学部・看護学部)
- 射水キャンパス**
 - 下旬 工学研究科入学者選抜
- July 7月**
 - 上旬 サークルリーダー研修会
 - 下旬 オープンキャンパス(工学部・看護学部)
- 富山キャンパス**
 - 6日(火)~8日(木) 初期体験実習

※令和3年2月1日現在の予定です。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、今後予定が変更になる可能性があります。最新の情報は大学HPをご覧ください。

県大ニュースの今後の改善・充実を図るためWEBアンケートを実施しています。

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で、本学オリジナルグッズ(文房具等)を進呈いたします。

下記URLの回答フォームからご回答をお願いします。
(回答期限: 2021年5月10日)

是非皆さまのご感想・ご意見を
お寄せください。

<https://www.pu-toyama.ac.jp/questionnaire128/>



編集後記

本年度よりこの県大ニュースはリニューアルされた。内容をより厳選することで、年間の発行回数を年3回に集約し、表紙のみだったカラーページを全面に採用することで見やすさの向上に努めた。また、毎回巻頭に特集ページ「Close-Up県大」を設け、本学の取り組みを中心に読者に興味をもって頂けそうな話題で、対談をベースとした情報の提供を行っている。もちろん内容を厳選した分、キャンパストピックスやその他情報については掲載量が減少している。大学の公式ホームページや公式

SNS (Facebook, Twitter) などの情報公開チャンネルが増える中で、時代の流れに沿って冊子体としてどのような情報を提供していくべきかについて、広報・情報委員会で議論を尽くして見直した結果である。読者の皆様はこのリニューアルをどのように感じられたらだろうか。様々な広報手段も含め、ぜひとも忌憚のないご意見を広報・情報委員会までお寄せいただきたい。

さて、改めて本年度に発行した県大ニュースの特集ページである「Close-Up県大」のテーマを見てみると、コロナ禍におけ

るオンライン講義、開学30周年を迎える本学のさらなる飛躍と続き、そして本年度最終号である本号のテーマは看工連携である。昨年度末より一年以上にわたって猛威をふるい続けたコロナウイルスに対して、年度当初こそ対応に追われていたものの、徐々にウイルスとの共存を図りながら本学の特徴とも呼べる取り組みを進めつつある姿がうかがえる。来年度は、本年度に得た教訓を生かして、これらの取り組みをドンドンマスマス進めていきたいものである。

(広報・情報委員長 鳥山 朋二)

